

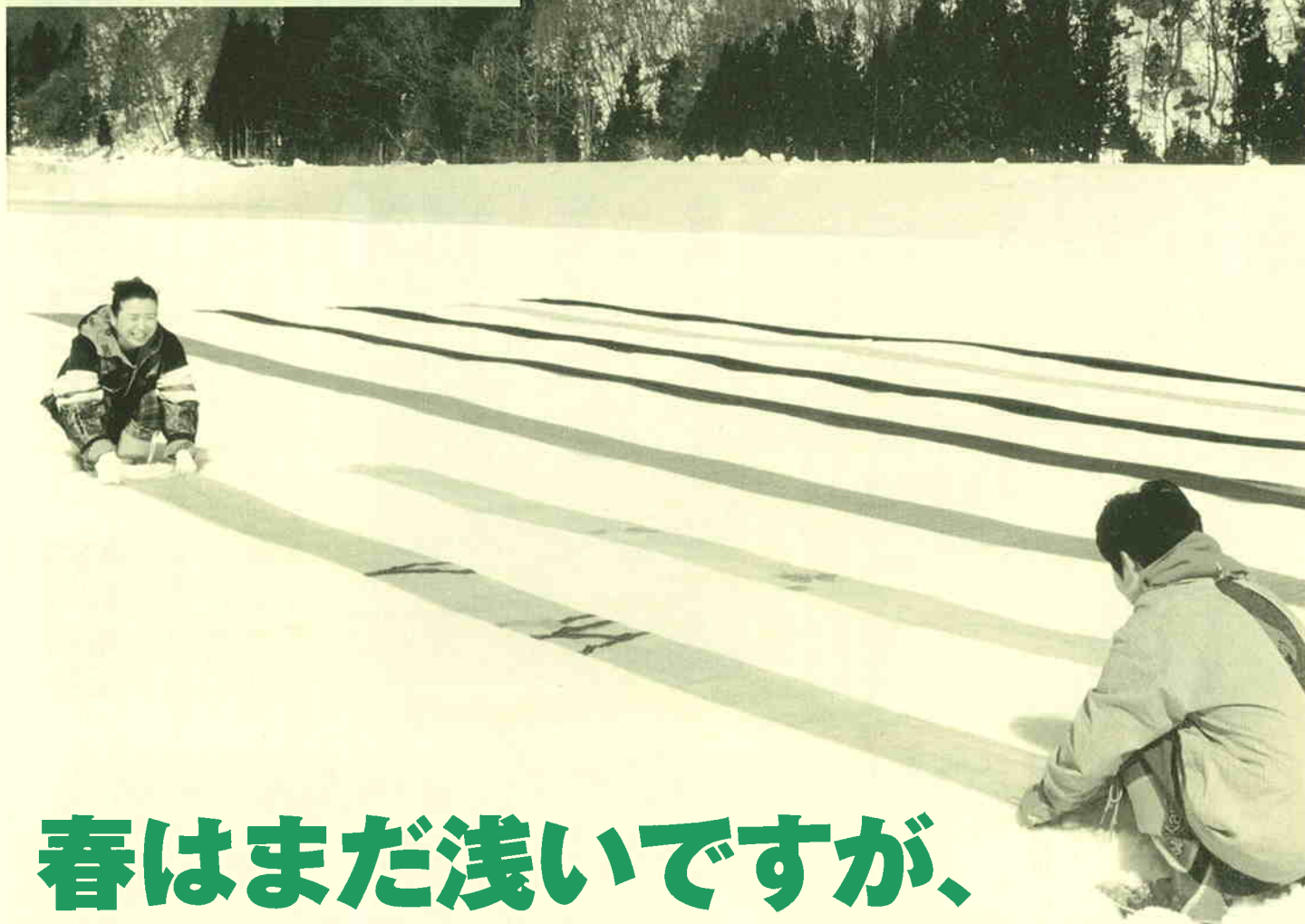
第3回歳時記の郷・フォトコンテスト

「奥会津賞 | 雪さらし」

大島 市朗

# 奥会津 だより

2001年春  
第5号



## 春はまだ浅いですが、 陽差しはまぶしい。

柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町

・南郷村・伊南村・館石村・檜枝岐村



OKUWAIZU

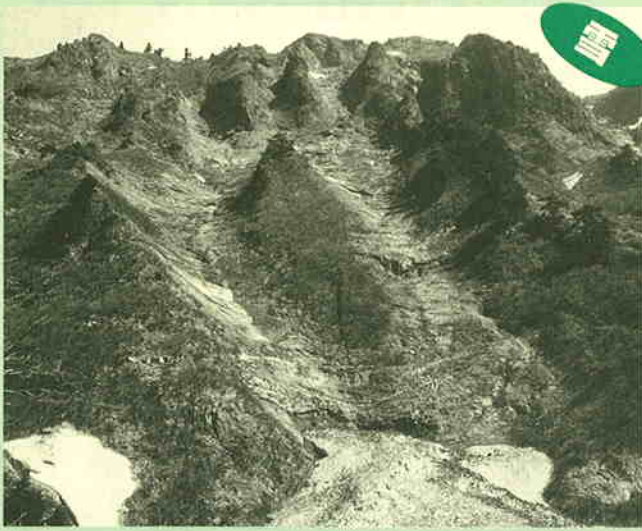
金山町  
子どもの体験学習自然教育村、  
都会でも流行り始めたヒリリと  
辛いあざき大根等、都市の需要  
を先見してきた金山町。約5千  
6百年前に火山が作った沼沢湖  
畔には、奥会津地域でも希な自  
然環境にとけ込んだリゾートの  
雰囲気があります。90mの水深  
の湖には、ヒメマスも棲み、ダ  
ム湖とはひと味違う、まさに奥  
会津の瞳です。

南郷村  
奥会津は水が豊富ですが、とり  
わけ南郷村集落の水の豊かさは  
格別です。目に見える水路ばか  
りでなく、豊富な水は伊南川の  
アユ、宮床湿原、高清水公園ヒ  
メサユリ、オゼリンドウ、南郷  
トマト、地酒の造酒屋など自然  
の恵みから地元産業まで、南郷  
村の今の個性を作り出してきた  
目に見えない推進力でもあった  
と思われまます。

# 奥会津の自然再発見プロジェクト 中間報告

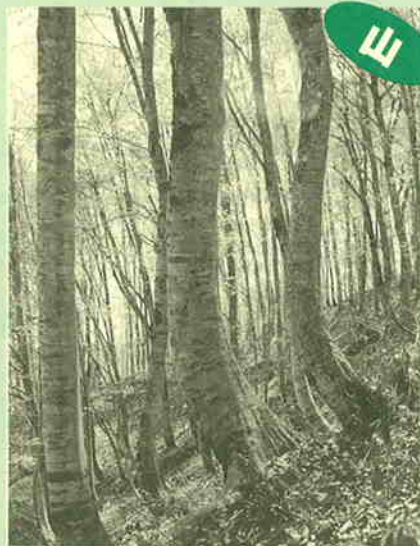
平成12年度にスタートしたこのプロジェクトは、今まで誰も気づかなかった奥会津の大自然の貴重性を再発見し学術的な価値付けをするものです。これまで奥会津の自然に精通した方々「自然博士」にお話を伺ったり資料を収集したりして、次第に奥会津の自然の特性が分かってきました。そのポイントは、雪と山と川です。今回、その中間報告をします。

奥会津の自然を特徴づける第1の要素は豊富な積雪量です。日本では、最深積雪深（平年値）が4mを超える地域は、奥会津、上越、北アルプス、白山地域に限られます。そのなかで奥会津は、標高が低い位置にある豪雪地であることが特徴です。豊富な雪が奥会津の自然のみならず人々の暮らしや固有の文化を育んできた源であり宝であると、多くの「自然博士」からのお話でした。



御神楽岳の雪崩のすべり台（下川和夫氏提供）

## 山



山麓に広がるブナ林（新国勇氏提供）

奥会津には二万五千分の一地形図に名前が載っている山が全部で255あります。そのうち崖を意味する「クラ」がつく山は、台倉高山、志津倉山など34もあります。これは奥会津がわが国屈指の雪崩地形の集中地帯であることを表しています。また、雪崩斜面には山菜類が豊富に出ます。それらはカモシカやウサギ等の草食獣にとって貴重な食料となり、その草食獣を餌とするイヌワシやクマタカ等にとっては、雪崩斜面は格好の餌場です。一見険しく見える奥会津の山々は、ブナやミズナラの林とともに、人間を含めた生き物を育む自然のシステムを持っています。山に生かされている奥会津の人々は、自然のシステムを壊さずに維持していく知恵を引き継いでいることを「自然博士」のみなさんから教わりました。

## 川



イワナの自然産卵（伊北漁協提供）

只見川本流にはダム湖を海に見立てて川と湖とを行き来する降海型のイワナやヤマメがいて60〜80センチもの大型になります。また、限られた地域にしか生息していないウケクチウグイやエゾウグイもいます。これらは只見川の水量が極めて豊富で、深く、広いからだといわれています。さらに多くの支流にはヤマメ、カジカ、イワナ等の渓流魚が生息しています。釣りでこれらの魚が減らないように、毎年多くの稚魚が放流されていますが、この稚魚は養殖しやすい雑種です。そのため、昔からの純粋な在来種の生息地は、遡上を妨げる砂防や堰堤等の存在もあって年々減少し、現在では最上流部に残されるのみとなっています。自然から糧を得ようとするには自然を管理していくことが必要ですが、その最善策を見つけて実行することは大変困難です。自然と共に生きようとする「自然博士」の取組みが、試行錯誤を繰り返しながら続けられています。

## 調査の成果のとりまとめ

現在ヒアリングや資料収集によって集めた様々な情報を、自然の保全や管理・活用のあり方を検討するためのデータベースとして利用できるよう整備中です。地域のみなさんご意見はヒアリングを通じてできる限り吸い上げ、プロジェクトに反映していきます。

ご意見などお気軽に事務局（只見町企画課 電話0241(82)5220 FAX0241(82)2117 担当：目黒・佐藤 までお寄せください。

その後ご協力いただいた方々

遠藤由美子さん（三島町）、渡部民夫さん（只見町）、馬場裕一さん（只見町）、福田範昭さん（電源開発（株））、吉津勝夫さん・鈴木善兵衛さん・目黒邦友さん（伊北漁協）、斎藤和夫さん（南郷村）、星定一さん（館岩村）、小勝玉夫さん（館岩村）

# 食

## 山 菜

### 自然の栄養

春の到来が間近になると、奥会津の雪深い山々は山菜の宝庫となります。多くの雪とブナ、ナラ、トチ等の落葉樹林帯が作る自然環境は、多様な生命と共に肥えた地味を育み、山菜はそこから生まれた自然の恵み、自然の栄養そのものと言えます。

山菜は古くから全国各地で利用されてきましたが、特に奥会津のような山間地域では日常の汁の実や副菜の他に、乾燥や塩漬けなど備荒食としても保存活用されてきました。その伝統は今日でも多くの家庭に残り、また製品としても販売されています。



### 鮮度が第一

ワラビ、ゼンマイ、コゴミ、山ウド、フキやフキノトウ等は今では栽培されたものが都会のスーパーマーケットでも見られるようになってきました。もつとも、スーパーにある山菜は、形はそれでも香り、風味は似て非なるものの観があります。

また、イラ、ミズナ、シオデ、ウルイ、タケノコ(地竹)など、採取時期や場所、量が限られているものも数多くあり、中には栽培の難しいものもあります。だからこそ、旅に出ても、幸いにしてこうした山菜を口にすることができた時は、初めてコゴミのゴマ和えを食して見た目と異なるあのシヤリシヤリとした歯触りに感動した時のように、忘れられない思い出にもなります。

山菜特有の微妙で繊細な味わい・風味は、時間と共に急速に変化していきます。その点では本来の山菜を求めようとするならば、鮮度は鮮魚と同じくらいに必要です。近年の鮮魚の保冷、水温等鮮度保存の技術進歩は注目すべきものがありますが、山菜の鮮度保存、長期保存技術の向上にはさらに研究が行われても良いのではないかと思います。山菜も種類と共に鮮度が重要な時代になっていくということでしょう。

その一方で、山菜は備荒食としてまた冬の保存食としても重要な役割を果たしてきました。が、今では何時でも食せるもの、また季節はずれの珍しさや価値となってきました。例えば東京で食べる山菜そばと地元で食べるそれとは、その山菜の量と味にみられる大きな差。土産物店で売っている塩漬けの山菜やキノコ類の塩辛さに閉口した覚えがあります。が、冬季地元で食べるキノコ汁のキノコはじつにおいしいという事実。

こうした地元で食べるものと流通ルートに乗ったものの違いは、流通ルートに載せたものは作る側の経済性だけが追求されている証でもあります。今

日では地元の主婦グループなどによる実生活から生まれた感性(「本当は小ロット生産の高い経済合理性がある」)から生まれた特産加工品などに人気が集まっています。こうした需要を奥会津のような山間地域の将来へ繋ぐものとして、先ずは地域の宝である山菜の保存加工技術を一層研ぐことで応えていくって欲しいものです。



### もつと知りたい

### 妖精美術館



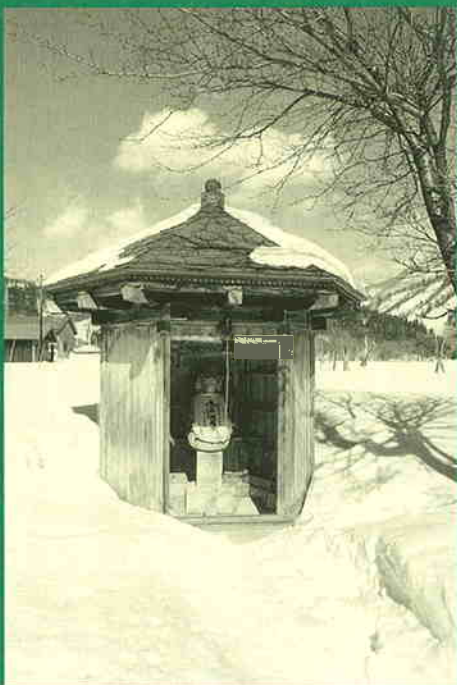
沼沢湖を見下ろす丘に立つ世界初の妖精美術館。イギリスの貴族の館をイメージして作られた館内は、天野喜孝さん原画の幻想的な高さ6メートルのステンドグラスや、英国の妖精研究で知られる井村君江明星大学教授のコレクションを中心に、妖精にまつわる多様な収蔵品が展示されています。先生曰く「心のアンテナをときぎまして...」お入り下さい。

### ●アクセス

国道289号線から沼沢湖方面へ  
(福島県大沼郡金山町大栗山狐穴)  
開館 9時~17時  
休館日/水曜日(祝祭日の場合は翌日)  
冬季(11月下旬~4月下旬)  
入館料/大人300円 高校生200円  
小中学生100円

## ふるさとの風景

《春近し》



奥会津の多くの集落には小さな祠などが祀られています。雪に埋もれていた地蔵堂が姿を現わしました。

第一回フォトコンテスト 入選 佐藤 修

## キララ289



国道289号線沿いにある山口温泉「きらら289(ニーパークュー)」は、1998年オープンした立ち寄り型温泉施設。和風の建物の1階は南郷村の地場産品展示販売コーナー、手作りのパンやそばなど軽い食事のできるレストランがあります。温泉は地下1階に男女別浴室を備え、それぞれに広々とした大浴場、露天風呂、ジャグジー、サウナなどがあります。

### ●アクセス

国道289号 山口トンネル脇  
入浴料金/大人700円  
子供300円  
開館 10時~20時  
休館日/火曜日

### 歳時記の郷・奥会津



## フォトコンテスト 審査会行わる

去る2月9日(金)朝日新聞東京本社において、第5回歳時記の郷・奥会津フォトコンテストの審査会が行われました。応募者数168名、399点の中から、藤田曄子(全日本写真連盟委員)・平野和彦(福島県写真連盟会員)・宇佐美等(富士写真フイルム)の3氏により、斎藤勝氏の歳時記大賞「祈願」をはじめ力作が選ばれました。福島県からの応募者は72名、茨城県26名、東京都20名。入賞作品の展示は3月下旬にNHK那山支局で、5月18日から朝日新聞東京本社内コンコースで行われます。

## 第2回エコハイク in昭和村

2月24日(土)・25日(日)の2日間にわたり、昭和村昭和の森公園で「第2回エコハイク」が開催され、東京から56名、地元から親子5名が参加しました。

当日は雪模様の中、昭和の森公園付近でスノーシュー(西洋カンジキ)を履いて2時間ほど散策。A班は、向かいの赤坂山に登り、雪



だるまを作って記念撮影。雪洞づくりもして雪山登山の疑似体験。B班は子ども中心に公園内を一巡り。屋根まで雪の積もった展望台前で記念撮影。子ども達は雪玉を転がし、雪まみれではしゃいでいました。子ども達の方がすぐにスノーシューに慣れていたようです。午後5時、宿舎到着。お手製の熱々の甘酒をいただきました。もち米から作ったという本格甘酒を始め、地元の産品を使った心のこもった夕食など大変おいしくいただきました。

夕食後は、地元の古老の山内善次さんと栗城岩喜さんの指導で輪カンジキ作り。足を載せる部分の紐の編み方が、両氏はいとも簡単にやっているので、いざ自分でやると・・・? あっという間の2時間でした。和洋のカンジキを体験したことになります。

翌日は午前8時半から、からむし生産技術保存協会長の五十嵐初喜さんにからむし織りの歴史と現在について話を伺い、伝統的なす

べて手作業の丹念さに全員圧倒されました。その後は、昭和村の雪まつりに参加。団子さし、餅つきをしてつきたての黄粉餅などをほおばり、雪上車に乗ったり、利き酒大会や模擬店で楽しみました。盛りだくさんのスケジュールでしたが、すべてこなして全員無事帰宅。



昭和村がこれまで迎えたことがない56名という大勢で押し掛けたにも係わらず、温かい心のこもった歓迎をいただきありがとうございます。特にしらかば荘さんには収容人員を大幅に上回り大変なお手数をおかけしました。紙面を借りまして御礼申し上げます。

## 奥会津でウォーキング 大会を実施します

**館岩村** (雪村観光協会 0241-78-2646)  
会津高原しらかばツアーウォーク  
5月19日(土)・20日(日)  
5、10、20キロコース

**柳津町** (企画費 0241-42-2114)  
歴史と文化のやないづウォーク  
5月27日(日) 7、10キロコース  
チラシを参考に皆様奮ってご参加ください。

# 町から村から 来て見て参加して!! 3月~4月 イベントカレンダー

3/11	日刊杯スキー大会	館岩村	
3/11	TAKAHATAスノーフェスティバル	伊南村	高畑スキー場グレンデに特設コースを作り、日本初の国内最大級スノーラフティング大会
3/17	ハーブパイプインNANGO	南郷村	スノーボードフリースタイル大会
3/17	天狗様祭り(大新田地区)	南郷村	
3/17	高畑エアカービング	伊南村	今話題のエアーカービング! トップスキーヤーによるビックエアー、テーブルトップなどのデモも必見
3/18	高畑カップモーグルコンテスト	伊南村	ますますエスカレートする高畑スノーモーグルコンテスト。3人1組によるデュアルトーナメント。全日本トップモーグラのデモも必見。
3/18	モローカップ	南郷村	スノーボードフリースタイル大会
3/20	福島民報杯 スノーボードNANGO	南郷村	スノーボードGSタイムレース
3/20,21	会津彼岸獅子	柳津町	
3/22	不動様祭り(宮床地区)	南郷村	
3/25	ポードークロス大会	南郷村	スノーボード大会
4/1	溪流釣り解禁	奥会津全町村	日本屈指の溪流魚の宝庫
4/5	大般若	南郷村	和泉田大泉寺
4/13	十三講まいり	柳津町	
4/28	糸滝不動尊例大祭	柳津町	
4/下旬	桜まつり	柳津町	観光行事

編集: さんぼみち総合研究所  
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-1-17 本駒込SOビル TEL03-3823-5893  
奥会津だよりホームページアドレス <http://www.e-sampo.co.jp/okuaiizu/>  
この冊子は電源立地特別交付金の事業により作成されています。

発行: 只見川電源流域振興協議会  
〒968-0421 福島県南会津郡只見町役場 企画課内 TEL0241-82-5220  
只見川電源流域振興協議会は只見川と伊南川流域の9町村で構成され、奥会津地域の活性化を目指している組織です。